

学生萌芽研究会の紹介

森本千佳子（もりもと ちかこ）
東京理科大学

1. 立ち上げの経緯

近年、学会では学術知と実践知の萌芽を大切に、それらを育てていく活動を積極的に行っています。萌芽研究の土壌の一つとして、学生会員の研究があります。しかし、実態として、学生会員は研究の入り口に立ったものの、卒業をきっかけに学会を退会するケースが多く、萌芽研究発展の観点からも、学会活動活性化の観点からも非常にもったいない状況にあります。ここに手を打てないかという背景から研究部会設立の議論が始まりました。

2. 活動モデル

会長、副会長をはじめ有識者の方との議論を通し、2022年2月、学生会員の社会関係資本の増加による会員経験価値（Membership Experience Value）の向上を通して萌芽研究を生み出すことを目的とした特設研究部会として、“学生の交流を促進する萌芽研究会（略称：学生萌芽研究会）”はスタートしました。本来であれば、学生による主体的な研究活動から研究部会が立ち上がるのが望ましいのですが、活動を軌道に乗せるためレベニューモデル（図1）を参照し部会の立ち上げを設計しました。レベニューモデルはマーケティング分野で知られており、企業の営業活動を表現したものです。学会における学生会員の定着を「リード（学生会員）獲得」「リード（学生会員）育成」と読み替え、彼らがファンとなり積極的なコミュニティ活動を自主的に行うところを目指します。まずは、リード会員になると期待できる大会発表経験学生を会員として勧誘を開始しました。また、将来的に口コミ紹介の「リサイクル（再現性）」確保のため、会長主導の特設研究部会として設置し、非会員（学生）についても参加機会を提供する場として機能させています。立ち上

げ時は、2021年度の全国研究発表大会で発表した学生を中心に4校から13名の学生が活動に参加しました。3月の卒業生がいたため、現在は10名となっています。

3. 活動内容

学生萌芽研究会の目的・意義は、前述の通り、学生会員のネットワークを形成し交流を促進すること（社会関係資本の増加）を通して、多様な萌芽的研究を生み出すことです。本研究会を、学生会員の交流・相互研鑽の場とすることで、卒業・就職してからも学会会員として残る価値を高め、将来の学会活動につなげる素地を作ることを目指しています。

具体的な活動内容としては、各自の研究の取り組みについて情報交換を開始したところ です。

多拠点の学生による活動であり、またコロナ禍でもあるため、活動にはoViceを活用しリモートでディスカッションをしています。学生は授業やゼミでもリモートを活用しているため、ツール操作にも柔軟で対応力も早く、非常に積極的な情報交換が行われています。その過程で、大学ごとの卒論研究・修論研究のプロセスの違いや方法論の違いに驚いたり、自らの研究姿勢に喝が入ったりするなど、有益な刺激を得ているようです。現時点ではまだ共同研究の萌芽は見えませんが、個々の研究活動に刺激を得たことで今後の研究活動に期待ができます。

今後の活動計画としては、さらに研究に関する情報交換やディスカッション、サーベイの相互協力、企業を招いての講演会・交流会などを予定しています。また、当面は教員関与による「リード育成」「有望リード」のプロセスにあります。徐々に学生主体の活動になる萌芽が見えています。

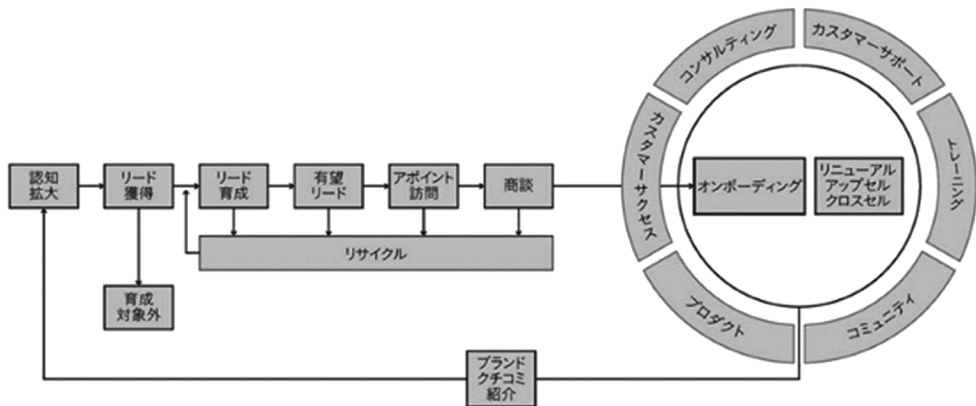


図1 レベニューモデル (福田 (2019) , p.72)

4. さいごに

このように学生萌芽研究会は2022年2月にスタートしたばかりの新しい研究部会です。この研究会活動がより学会活動に貢献するためにも、お近くに経営情報学に関心のある学生がおられましたら、ぜひ、当研究会をご紹介いただければ幸いです。

参考文献

- [1] 福田康隆『THE MODEL マーケティング・イン サイドセールス・営業・カスタマーサクセスの共業プロセス』翔泳社, 2019年.